

流行のインターネットカフェ

「コミックバスター」の名でFC店を展開

国内の潜在市場は図り知れない
家や学校、会社じゃやない第3の空間に人気



株式会社アクロス

原田 健一 代表取締役社長

インターネットカフェが激しくお客の争奪戦を展開し、注目を集めている。

コミックバスターのブランド名でFC（フランチヤイズ）店を運営している株式会社アクロス（本社・大阪府吹田市）は、今後の長期経営計画によると、平成19年5月期の単体での売上高はFC店からのロイヤリティー収入が前期比34%増の34億円は確定。また平成20年には店舗数が100店舗増の240店舗となり、売上高は20%増の40億円を見込んでいる。

これについて原田健一社長は「ネットカフェ

貴社の事業内容に インターネットカフェを今後経営計画に 利用する人は1人で来てお開かせください。店されるケースが多いので、1人で来店されるお客様に満足していただくためのFC店の展開ならびに直営店の経営を、複数を来店されるお客様にも満足していただけるよう各種コンテンツサービスなどの充実を図っています。お客様の来店目的のトップはマンガと新聞で、次がコミックとインターネットで、その他に店舗規模や商圏特化に応じて、カラオケルーム等の娯楽系アイテム、ゲルマニウム温浴などの癒し系アイテムなど多彩なアイテムで事業展開しております。

エの国内の潜在市場を4千3百店舗と見ております。その1割のシェアを確保して、業界No.1を目指しています。将来的にはコミックバスターのブランド名で海外にもネットカフェをオープンさせたい」と力説する。

また「家や学校、会社ではない第3の空間をザードブレイス」の場を顧客ニーズに合わせながら提供していきたい」とも述べた。好きな言葉は「さし当たる その事のみをただ思え 過去は及ばず 未来は知れず」。

海外への進出も視野に

新コンテンツでは「登竜門」を開発中

原田健一（はらだ・けんいち）氏の略歴
昭和49年9月株式会社井上書店入社、昭和57年12月有限会社京阪泰を設立、代表取締役社長に就任。平成元年11月株式会社京阪泰に組織変更、代表取締役社長に就任。平成18年8月に商号を株式会社アクロスに変更、代表取締役社長に就任。現在に至る。山口県出身。昭和31年10月4日生まれ。50歳。

最初は順調だった空間 ザードブレイス、ある時期から店内の提供していきま。第のロイヤリティー収入をFCにウイリスソフトを2に本を厳選するためのインストールしたり、感のです。たかが漫画本の染したりしてFCが故障思われがちかもしれませ。平成20年までは10店舗増の240店舗まで拡大させ、売り上げも40億円程度を見込んでおります。3年後の平成22年5月には400店舗、平成25年には600店舗を目標にしております。日本複合カフェ協会との調べによると、現在ネットカフェは全国に2千5百店舗以上あります。平成21年には4千3百店舗まで増加すると予測しています。その1割のシェアを確保して業界No.1を目指します。

貴社の中長期計画は、平成21年には4千3百店舗まで増加すると予測しています。その1割のシェアを確保して業界No.1を目指します。

原田 好きな言葉は「さし当たる その事のみを ただ思え 過去は及ばず 未来は知れず」です。趣味はゴルフと参り。健康法はジムに通うことです。一回行くと90分くらいいますね。肉体と心は表裏一体なので

部（名古屋）経済の勢いがひしひしと伝わってきます。新幹線の「のぞみ」に乗って東京へ出張したのですが、名古屋駅で半数以上が乗降するのが印象的でした。関西はものづくりの街なので、景気の話になると中小企業を抜きに語れません。いい技術をもった方々が多くいますが、中小企業の中でも、勝ち組、負け組、がはっきりしてきているのでしょうか。私も含めての話になります。中堅、中小企業の経営者の方々も今まで以上に切磋琢磨することが求められてきます。それとアメリカが昔のように元気がならないと大阪の街は元気がならないのではなないでしょうか。時代の流れとともに少子化になり子供の数は減る一方です。しかし、街の魅力があれば自然と集まってくる。昨秋、ミナミに101（マルイ）が神戸に続いて出店しました。若者には魅力ある街にミナミは変貌しつつあります。関西を含め、民の力で地域の経済を再生させたいといけません。アメリカ村のように関東にはない独自のパワーをこの街に必要だと思っております。今は行政主導で物事が行われているように思えてならない。民間主導でやらないと、行政の方は後方支援する進め方ではないと民間のいいアイデアも活かされなくなると、個性ある街大阪に魅力がなくなってしまうので、このチャンスを活かして魅力ある街に変わってほしい。



1割のシェア、業界No.1を目指す

